合同教育研究会議（4月13日開催）議事概要

1 開催日時

令和4年4月13日 13時00分～14時05分

2 場所

本部棟3階 特別会議室

3 出席者

鈴木学長、石堂副学長兼高等教育推進センター長、
狩野副学長兼研究・地域連携本部長、宮野副学長兼事務局長、
猪股教育支援本部長、三上学生支援本部長、橋本企画本部長、熊本国際教育研究部長、
福島看護学部長、高橋社会福祉学部長、亀田ソフトウェア情報学部長、高嶋総合政策学部長、
川崎盛岡短期大学部長、松田宮古短期大学部長、
菅原委員（学外委員：岩手大学名誉教授）、
長谷川委員（学外委員：製品評価技術基盤機構理事長※Web参加）

[事務局]

新沼事務局次長兼総務室長、関屋教育支援室長、高田学生支援室長、
藤村研究・地域連携室長、北島企画室長、
西川総務財務課長、八木主幹、伊藤主任主査、渡部主査

4 会議の概要

会議に先立ち、新任者の紹介が行われた。

議事録確認

前回会議3月23日の議事録（議事概要）については、原案のとおり了承された。

審議事項

なし

協議事項

なし

報告事項（口頭報告）

（1）国連アカデミック・インパクト活動報告書について

橋本企画本部長から、資料に基づき説明があった。

学長から、各部局からの令和3年度の活動報告に当たっては、過去の活動報告書を確認の上、要点をまとめて正確な日本語で報告するよう発言があった。

（2）THE 世界大学ランキング日本版 2022 について

橋本企画本部長から、資料に基づき説明があった。本学と同規模の他大学との相対的な比較はできる一方、ランキング指標の判定に用いられている数値が、本学が行っている取組に馴染まない側面もあるためになかなかランクが上昇しないという事情もあるのではないかと考えていること、今後の当該ランキングへの参加に

ついて、ランキングが対外的に行われている客観的評価の一つである以上、より上位の評価を得ることが望ましいという考え方もあるが、本学の事業に馴染まない数値に基づく評価ならば、参加を継続するかどうかを検討してもいい時期にあること、参加を継続する場合はアンケート調査などに協力いただきたい旨、補足説明があった。

委員から、教育成果の数値が低い、ランキング指標の解説によると教育成果は上場企業や大企業への調査結果を基にしており、本学が行っている地域への人材の還元という取組ではこの数値は上げられないのではないかとの発言があった。

学長から、この数値だけで大学を測ることはできないこと、ランキング参加を継続する場合も数値を気にしすぎるのではなく、地道に取り組んでいく必要があるとの発言があった。

委員から、ランキングが全てではないが参加している以上は数値を上げられるよう努力すべきと一般的には言われるが、教育成果の著しい低さの理由が不明であり、改善しようにもどのような取組を行えばよいのかの手掛かりが全く見えないう状況にあることを踏まえると、ランキング参加を継続することの意義には疑問があるとの発言があった。

委員から、ランキングに関する役員の勉強会を行うことや、弱みの改善だけでなく強みを際立たせるような表現の工夫をすることについて発言があった。

報告事項（資料報告）

- (1) 令和4年度入学者選抜試験の結果について（教育支援本部）
- (2) 「令和3年度第12回職員衛生委員会」の結果について（総務室）

宮野副学長兼事務局長から、(2)について、令和3年度定期健康診断の最終的な受診率は100%となったこと、各所属長は教職員の健康管理に引き続き協力いただきたい旨、補足説明があった。

その他

北島企画室長から、次のとおり説明があった。

- ・ 今年度の合同教育研究会議の日程が一部変更となったため、変更後の日程表を机上配付したこと。
- ・ 前回会議で配付したファクトブックに一部誤りがあったため、正誤表を机上配付したこと。
- ・ 大学基準協会広報誌を机上配付したこと。